

安全指導部からのお知らせ

本校の大規模災害に対する備えをご紹介します。

・ガス、食料について

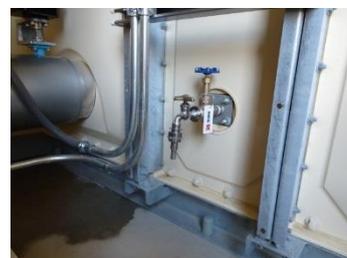
本校は都市ガスを利用しており、災害時には復旧が遅れることが予想されます。そのため保存食は火を使わない乾パン（696缶）、長期保存パン（24個×2箱）、アルファ化米（50袋）などを備蓄しております。



・水について

保存用として500mlペットボトル水744本、20ペットボトル水72本を備蓄しています。

また本校の水道は、校庭北側に設置されている貯水タンク（17.5立方メートル）に1度貯水され、そこから校舎に送水される仕組みになっており、常に新鮮な水が貯水されている状態です。貯水タンクには、内部に非常用の蛇口が3口設置されており、飲料水にも利用できます。貯水量17.5立方メートルは500mlペットボトルで約35,000本分にもなります。しかし夏季期間の炎天下では塩素がとんでしまうため、飲料水としての利用は2～3日とを考えています。



・電気について

本校にはスプリンクラー消火設備、消火用散水栓が停電時でも使用できるように非常用自家発電機が設置されています。地震時にも活用でき、停電になった際には自動でエンジンが始動し、体育館、職員室、事務室、児童生徒玄関付近の照明やコンセントが約半数が点灯、使用できます。燃料（軽油）タンクを190ℓに増設しており、最大負荷（発電量いっぱいの電気使用）の状態でも、9時間30分連続運転することができます。



・暑さ対策について

上記でお知らせした通り、体育館では電気で扇風機を使用できます。また備蓄用ペットボトル水、貯水タンクの水で水分補給も十分できると考えます。

・寒さ対策について



本校では、震災用のストーブを6台準備しています。

しかし、本校で通常使っている集中暖房は、地下タンクで5,000ℓの灯油を貯蔵して使用していますが、震災時には地下タンクから灯油を抜くことは困難で、家庭用の灯油容器11本分198ℓ（灯油の少量危険物の規制を受けない限界量）を備蓄しています。この灯油でストーブ全台を24時間連続燃焼させて、約2日半使用することができます。また年に1回、この備蓄用灯油を危険物取扱者の免許を持つ職員（本校の地下タンクは危険物としての規制があるため免許が必要）が地下タンクに戻し、新しく新鮮な灯油を購入しています。



また、父母教師会からブランケットを購入していただきました。他の学校の情報を聞いたところ、東日本大震災後に毛布を購入し倉庫に保管していたら、3年経過してカビが生え使えなくなったという情報があり、ブランケットを採用しました。



・その他

安全指導部では、時（季節）や場に応じた臨機応変な行動ができるよう研修を行っています。これまで、

- ①午前の電気を必要としない時期や時間に地震が発生した際、手動で発電機のエンジンを停止し、電気を必要とする夜間に再始動させる。このことで燃料（軽油）消費を減らし、より長時間発電機を運転できるようにする。
- ②発電機がガス欠してしまい、その後に軽油を調達できた場合、エンジンを再始動させる際のエア抜きの仕方。
- ③災害直後で職員の手が足りない（トイレ用の水をプールから運ぶのが難しい）時、体育館の消火用散水栓からバケツに水を汲みトイレに使用する。
- ④地震の震動でスプリンクラーが誤作動してしまった際、緊急停止をさせて貯水タンクの水や発電機の燃料消費をストップさせる方法。など、業者が来校した際や取扱説明書を読んで研修しています。



文責：防災主任